

中山外務大臣政務官の第3回スーダン・コンソーシアム 会合出席及び南部スーダン訪問

平成20年5月5日～11日



(1) アフリカ最大の国であり、周辺9ヶ国と国境を接するスーダンの安定は、アフリカ全体の安定に直結。スーダンは、現在、和平への糸口が見えないダルフル問題と依然として脆弱な南北スーダン和平問題という二つの大きな不安定要素を抱えており、国際社会の関心も極めて高い。

(2) こうしたスーダン問題を巡り、我が国は、「平和協力国家」としての具体的な取組を實踐し、また、TICADIV主催国及びG8議長国としての指導力を発揮すべく、中山外務大臣政務官は、5月6日～7日にオスロで開催された対スーダン支援に関する閣僚レベル会合(第3回スーダン・コンソーシアム会合)に我が国政府首席代表として出席し、その後、南部スーダン(ジュバ)を訪問(5月9日～10日)した。

第3回スーダン・コンソーシアム会合出席 (5月6～7日、於:オスロ)

(イ)中山政務官は我が国政府首席代表として標記会合に出席し、南北バランスの取れた支援、復興・開発支援への支援比重のシフト等の我が国の今後の対スーダン支援指針、及び今後の支援プレッジ(約2億ドル)を表明し、高い評価を得た。

(ロ)また、1日目午後のセッションでは、南部スーダン政府閣僚と共に共同議長を務め、円滑な議事進行を行い、高い評価を得た。また、ターハ副大統領等南北スーダン政府の要人と会談した。

(ハ)カジ国連スーダンミッション(UNMIS)代表とも会談し、南部スーダン情勢や南北包括和平合意(CPA)の履行状況、更には我が国の国際平和協力のあり方について議論したところ、同代表からは、特に工兵部隊を中心に我が国自衛隊のUNMIS派遣に対する期待が表明された。



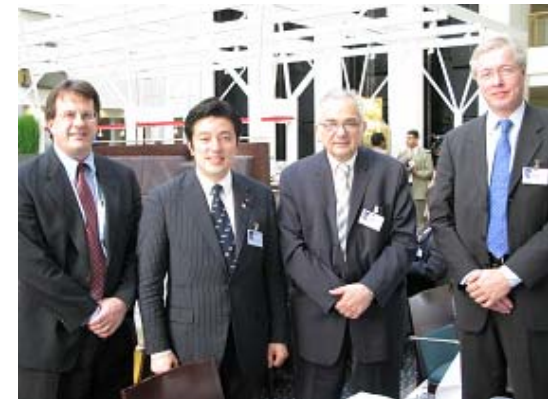
アルジャーズ財務大臣



ベンジャミン地域協力大臣他



午後のセッションでの共同議長



カジUNMIS代表

南部スーダン(ジュバ)訪問(5月9～10日)



WFPと食糧事情視察

(イ)中山政務官は、サルヴァキール南部スーダン政府大統領(スーダン政府第一副大統領を兼務)と会談し、我が国の対スーダン支援を中心に会談した。その中で、同大統領は、今後の対南部スーダン支援において我が国が中心的な役割を担うことについて強い期待を表明すると共に、我が国自衛隊がUNMISに参加するのであれば歓迎したい旨表明。

(ロ)また、中山政務官は、UNMISのジュバ駐屯地を視察し、UNMISの活動状況につきブリーフィングを受けると共に、バングラデシュ軍による地雷除去活動を視察した。更に滞在中、我が国支援による事業(JICA、NGO、国連機関(UNHCR、WFP)事業)を視察。



地雷除去デモンストレーション



UNHCR帰還民受入れ現場



UNMIS本部訪問

結 果

(1) 中山政務官の第3回スーダン・コンソーシアム会合への出席により、我が国の対スーダン支援のコミットメントを明確にした他、同会合における我が国の存在感を十分に示すことができた。また、二国間会談を通じ、日・スーダン関係の一層の進展がはかれると共に、ダルフール問題の解決やCPAの着実な履行等の国際社会の関心・懸念をスーダン側に直接伝えたことは、G8議長国として国際社会の平和と安定の実現に積極的に取り組む姿勢を示す観点からも極めて有意義であった。

(2) また、ジュバ訪問中に行われた中山政務官とサルヴァキール南部スーダン政府大統領との会談は我が国政府高官としては初めてであり、我が国の対南部スーダン支援に対する揺るぎないコミットメントを示した。更にジュバ視察を通じ、治安は概ね落ち着いており、各種の復興事業が立ち上がりつつある南部スーダン地域の実情を把握することができた。



サルヴァキール南部政府大統領



ウガンダからの帰還民



ターハ副大統領